

2010年6月30日 No.102

# 全国一般全国協

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL03-3434-1236 FAX03-3433-0334

URL:<http://www.nugw.jp>

## 生活優先に向けた政治改革をねばり強く追求しよう!! 最低賃金引き上げと、派遣法抜本改正を闘いとろう!!

「強い経済・強い財政・強い福祉」路線は、生活優先の政治にならない!

長く続いた自民党支配の政治に変わつて、民主・社民・国民新党連立政権が、生活重視への転換を掲げ誕生した。新自由主義・グローバリゼーションによる規制撤廃・構造改革路線が、資本の国際競争力強化に特化し、労働者民衆の生活と権利をズタズタにしてきた。これ以上の痛みの押しつけはごめんだと、政権交代の選択を下したのだ。

しかし、連立政権は、充分な政策転換を貫徹できなかつた。「政治と金」「普天間基地撤去問題での沖縄民衆への約束反故」で鳩山政権が退陣に追い込まれ、社民党的政権離脱を生んだ。代わつた菅内閣は、強い経済・強い財政・強い福祉路線を提唱、消費税引き上げ、法人税減税を打ち出した。

歴史の逆行を予感させる、危険な動きと言わなければならぬ。しかし、政権交代を望んだ労働者民衆の怒りは底深いものがある。政治の大きな転換は、行きつ

戻りつし、一直線には進まないものだ。労働者民衆の政権交代・変革の意志を運動にして、歴史的転換を推し進める闘いに、引き続き取り組もう。

労働者の犠牲で急激な業績回復を遂げた資本・労働者に還元はゼロ!  
長期化する中小春闘、夏の一時金闘争と結合して闘おう!

10春闘の大手攻防は、連合のベア要求放棄もあって、資本・経営のペースで進められた。ベア・ゼロ、定昇見直し、一時金引き下げで早々と決着、敗北させられた。これを受けた中小・非正規の10春闘は、困難を極めた。定昇のない中小で、賃上げなしは、実質賃金ダウンだ。資本の低額回答に闘いは長期化、夏の一時金闘争と結合して取り組んで行こう。

戻りつし、一直線には進まないものだ。労働者民衆の政権交代・変革の意志を運動にして、歴史的転換を推し進める闘いに、引き続き取り組もう。

また、個別中小企業の業績困難の中、社会的賃金底上げのために、最低賃金引き上げが有効だ。自治体関連事業の民営化の下で働く労働者の待遇改善を、

### =全国協=

#### 「労働組合をつくろう! 活動家養成合宿」

時：7/17(土)13時～18(日)12時  
所：東京海員会館(中央区晴海3-7-1)  
(大江戸線勝どき駅A3出口徒歩9分)

### 第20回 定期全国大会

時／2010年9月11日(土)13時から  
12日(日)12時まで  
所／東京・大田区消費生活センター  
2F大集会室 TEL03-3736-7711  
(JR蒲田駅東口徒歩5分)



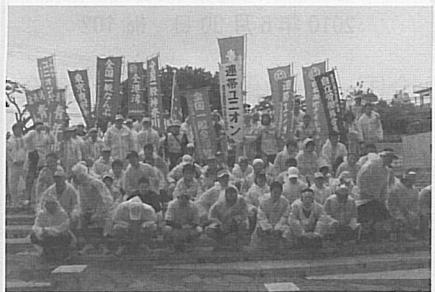
公契約条例制定運動と結合して取り組むことも重要だ。地域的、社会的賃金闘争の取り組みを、この時期、各地区で開かれる地域最低賃金審議会への闘いとして取り組んでいこう。

臨時国会で、必要な修正・補強を追求し、派遣法抜本改正を闘い取ろう!

元凶＝派遣法の抜本改正を求めて、臨時国会に向け全労働者が派遣法改正を統審議となり、参議院選挙後の臨時国会にかけられることになった。雇用破壊の取り組もう。

派遣法の抜本改正を勝ち取る必要がある。先の国会で派遣法改正案は率せず、継続審議となり、参議院選挙後の臨時国会にかけられることになった。雇用破壊の取り組もう。

## II 第33回 沖縄平和行進（5月13～16日）――●普天間即時返還、辺野古新基地建設反対



### 大雨は沖縄の怒り…

大鵬薬品労組・田辺利之

今回、私は初めて沖縄平和行進に参加しました。大

雨の中の行進で寒い沖縄でした。この大雨は沖縄県民の怒りが天気さえも怒らせのかもしれませんと感じました。

沖縄には多くの自然がある傍ら多くの基地があり、もの嬉しい騒音もあります。今回の行進時に実際に騒音を聞き恐怖感さえ覚えました。私達は基地のない環境が当たり前となっていますが、同じ日本でありながら

沖縄平和センター等が主催する沖縄平和行進と普天間基地包囲行動に三単産の員として全国協から19名が参加した。

沖縄では、普天間の国外県外移設を求め4月25日に9万人の県民集会があつたが、鳩山前総理はこうした沖縄の民意に対し、公約を放棄して沖縄県内への移設

を表明していた。

連日のどしゃ降りの雨の中、全国協の仲間は三単産の隊列で元気に行進し、最終日の普天間基地の包囲行動の成功の一翼を担った。

沖縄戦の体験者の話を聞くことができたり、夜の交流会のバーベキューなど、全港湾沖縄地本には、本当に世話になつた。「基地はいらない」という沖縄の

声を、日本各地に持ち帰り、さらに拡げていく行動を通じて全港湾沖縄地本の皆さんに対する感謝に変えたい。

声を、日本各地に持ち帰り、さらに拡げていく行動を通じて全港湾沖縄地本の皆さんに対する感謝に変えたい。

### 基地がなくなるまで沖縄の戦争は終わらない！

中金労組・大島裕一郎

今まで私が沖縄の基地問題を人ごとのように感じていたことを痛感させられた。

沖縄は27年ぶりに日本に復帰し、喜びに満ちあふれているものと私は思っていたが、実際は、復帰しても沖縄の基地はなくならず、生活水準も日本で下位であり、基地が沖縄から無くなまるでは、沖縄の戦争は終わらないと考えている人が多いのを初めて知った。

私は、今回の行動を通じて、沖縄から基地が無くなり、戦争の無い平和な世界になつてほしいと強く感じた。

沖縄は思えないほど寒く、大変厳しい行動となつた。

私が特に印象に残っているのは、宜野湾市を行進中、

普天間基地にアメリカ軍の戦闘機が機着陸したことだ。

驚いた。「世界一危険な基地」と言われる意味がこの行進を通してわかつた気がした。私は、今回の行動を通じて、沖縄から基地が無くなり、戦争の無い平和な世界になつてほしいと強く感じた。米軍基地ができるだけ早く無くなり、早くこの行動をしなくてもよい日がきてほしいとも思った。日本全体での問題をもつと真剣に考えていかなければならぬ」と思つた。



### 沖縄の雨に撃たれて

全芝浦屠場労組・宮内耕児

5月の14、15日私たち屠場労組の4人は、沖縄平和行進と「普天間包囲人間の鎖」に参加した。

初日の平和行進は、1976年以来の豪雨が足取りを重くする。ゼッケンや鉢巻・腕章は雨でずり下がり、道は川のように…。坂道を登り2kmくらい歩いた頃、右手に見えたのは、60年前すべての地獄をひとつにしたという前田高地だった。銃撃の雨に撃たれた沖縄の人たちを思えば、雨に打たれていたという前田高地だった。

に、まだ沖縄は戦争が終わっていないと思い、空を見る



## 「公契約条例運動」に取り組もう ワーキングプアをなくせ！ 働きがいのある賃金を！

「公契約」とは、自治体が企業に業務を発注する際、労働者の賃金や労働条件についても、「最低でもこの水準を下回らないこと」を入札の条件にするのです。労働条件のダボピングに歯止めをかける意味で、この条例化運動の必要性が高まっています。

います。

5月30、31の両日、全労協第5回組織化会宿が「公契約運動と組織化」をテーマに箱根にて行われました。取組を前進させようと、50名を超えて参加となりました。1日目は、小畠精武さん（自治労アドバイザー）の

「公契約条例制定運動の経過と到達点」との基調講演、そして練馬全労協・三澤副議長から練馬区における公契約条例制定に向けた取組の報告。

2日目、都立病院の業務民間外注化の問題点について、都庁職病院支部・大利執行委員の報告、そして09年9月公契約条例を全国に先駆けて制定した野田市の長南（おさなみ）市議からその経過と意義についての報告がありました。



## 四国における労働相談はまかせて！

### 港湾ユニオンセンター

全国協徳島協議会は全港湾及び全日建と争議相互支援、春闘の取り組み、組織拡大、メーデー前夜祭の共催など三連戦を進めてきました。このたびおやじパワーで労働者の団結を促そうと大鵬薬品労働組合の北野静雄氏（昨年7月定年退職）、河村洋二氏（昨年8月農協労連定年退職）、全港湾長尾伸夫氏（現役委員長）ら3名で、非正規社員や労働相談を受ける窓口「港湾



## 5・23 第12回大会を開催

### 翌日には国交省厚労省交渉

#### 全国ハイタク

全国ハイタク労働組合共闘会議の第12回定期大会が、5月23日川崎市で開催されました。大阪京阪、神奈川都市交通、全国協神奈川傘下の金港、福島連帯傘下の白河光、だるま、ユニオン（北九西鉄）、次長に山本（新都市交通労組書記長）の各氏を再選し大会を終えました。

翌24日、減車状況と最賃をめぐる労働時間定義（＝客待ち時間は労働時間である）を柱とする国交省・厚労省交渉をおこないました。

今年の政府交渉を経て、最賃闘争の展開が、減車規制を作り出す可能性の一つであることが、はつきりしました。

今回、始めて沖縄の平和行進に参加しました。沖縄での地上戦から65年、そして返還から38年目です。この間、ずっと基地問題を抱えてきました。沖縄県民には、まだ戦争は終わっていないのです。

沖縄平和行進をして、沖縄の人たちの「米軍基地はいらない！」との声を直に聞いて、この声をみんなに伝えたいと思いました。沖縄の人たちは、行進をしていると、手を振り声援をくれました。そして、子どもたちからも「基地の騒音がうるさい」との声を聞きました。こんな沖縄の人たちの声を聞いて下さい。

行進中に、F/A18ホー

ヘリ・労働時間における営業停止などは取りうるという回答がありました。

今年の政府交渉を経て、最賃闘争の展開が、減車規制を作り出す可能性の一つであることが、はつきりしました。

## 戦闘機の爆音に恐怖感

ユニオン北九州・松田義導

ネットが着陸でデモ隊の真上を通った時は、爆音で隣の人の声も聞こえず、すぐ近くを通ったので恐怖を感じました。

この行進をして感じた自分の思いを言います。「沖縄に米軍基地はいらない。日本に米軍基地はいらない。米軍は自分の国に帰れ。平和で静かな生活を返せ。」

**フリーダイヤル開設**

**0120-501-581**

**全労協の労働相談**

最寄りの相談所へ繋がります





# 6・3東横イン労組の結成通告 II 7・21全国一齊ビジネスホテル労働相談会

今まで数々の失態を世間にさらしてきました。悪いニュースで記事になるのはこれで最後にしたいと思います。

東横インの従業員である私達は、問題点・改善点を日々感じながら落胆と半ば諦めの気持ちで勤務して参りました。上は全く聞く耳を持たないという体質の為、

東横イン労働組合

執行委員長 三田圭子

で働いていますと胸を張つて言えるよう、出来るだけ

中立の立場にたち会社を向

上させ変えていきたいと願つ

ています。

東横インの約200店、6

900人の従業員のうち、

尼崎と大阪の女性スタッフ

がたちあがり、未払賃金の

請求、労基法順守、研修見

直などを要求し闘いは始

ました。今や北海道から九

月連続で半壇の閉塞空間に、5月13日の組合結成を通告し、要求書を提出した。東横インの約200店、6900人の従業員のうち、尼崎と大阪の女性スタッフがたちあがり、未払賃金の請求、労基法順守、研修見直などを要求し闘いは始

ました。今や北海道から九

州まで一斉に労組加入が続いている。  
そもそも、拘束24～25時間が反復するシフト制で、夜間1人のため休憩とされている間も電話と接客のために『休息も仮眠も取れないのは当たり前』。また、採用時の義務研修が、7泊8日連続で半壇の閉塞空間で「自己陶冶」するという人格否定の過酷な「内観研修」というものだ。

## 不当事務の撤回、カーボンナノチューの発ガソ性研究の妨害を許さない

長野一般労組・信大・小山省二

大学で、いま「第2のアス

ペスト」といわれるカーボ

ンナノチューの発がん性

研究などをめぐり、長野一

般労組の組合員である小山

省三医学部教授が、信州大

学と工学部遠藤教授を相手

取って、6月2日長野地裁

松本支部に対して不法行為

による慰謝料請求事件をお

こしました。小山教授は、

すでに2008年7月には



## 事業所閉鎖攻撃とたたかう！

洛南ユニオン物流システム分会

洛南ユニオンでは、昨年来トラック運転手の組合加入が続いている。過労死か事故、最賃割れと法律無視の過酷な職場からの決起だ。

4月から毎月「トラック部会」として、集まりを持つている。職場の違いを越えてお互いの労働条件や仕事の現状を交流し、団交には相互乗り入れで応援し、団交を強めている。

今年2月に7名で京都地裁に提訴した未払い残業賃金訴訟と事業所閉鎖反対の二面戦で物流システム分会の仲間を軸にトラック部会の総力を闘う。

6月12日の団体交渉において会社は「8月末で京都営業所を閉鎖する」との通知を行ってきた。これは、残業賃金未払い裁判つぶしを狙った実質的な解雇攻撃だ。

組合は、裁判勝利とナノ物質であるカーボンナノチューの安全性問題で、全国の仲間と連帯して闘っていきます。

報道されたことで、労働者の安全と健康問題に大きな関心が寄せられています。

今年2月に7名で京都地裁に提訴した未払い残業賃金訴訟と事業所閉鎖反対の二面戦で物流システム分会の仲間を軸にトラック部会の総力を闘う。

全国一般東京東部労組の組合員100人超が働いている、ユニフォームやティーブルクロスなどをレンタルして洗濯配達しているディベントロイネンサプライ株式会社で本社工場（東京・大田区）の閉鎖策動が進んでいる。会社は子会社であるセブンズクリーナー三郷工場（埼玉・三郷市）の月末での閉鎖も狙っている。

6月28日にに支部は臨時大会を開き、圧倒的多数の賛成でスト権を確立。

今後、闘争態勢を強めていく方針だ。

トラック部会の中心になっ

た。洛南ユニオンでは、昨年

来トラック運転手の組合加入が続いている。過労死か事故、最賃割れと法律無視の過酷な職場からの決起だ。

4月から毎月「トラック部会」として、集まりを持つている。職場の違いを越えてお互いの労働条件や仕事の現状を交流し、団交には相互乗り入れで応援し、団交を強めている。

今年2月に7名で京都地裁に提訴した未払い残業賃金訴訟と事業所閉鎖反対の二面戦で物流システム分会の仲間を軸にトラック部会の総力を闘う。

